

## 第1回ロータリー日米親善会議に参加して

バストガバナー 道下 俊一

1943年テネシー州に或る日ひそかに突然創られた街があった。そこでは秘密裡に原子爆弾が作られていた。その第1号は広島に落とされた。その街は後にオークリッジ市と名付けられ第二次世界大戦終結を援助した誇りと共に今年誕生50周年を迎え「Born Of War, Living For Peace, Growing Through Science」のテーマのもと色々なイベントが開催されている。その一つのプログラムとしてロータリーを通じての日本とアメリカの友好関係の再確認ならびに国際的な理解と親善をはかる目的でオークリッジ・ブレイクファスト・ロータリークラブとロータリー6780地区とロータリー財団、オークリッジ・ロータリークラブ、日本のロータリーの共催であった。

ロータリー財団は平和プログラムとしては過去最高の26,950ドルを援助した。その他本会議のコストは登録料及びその他の寄附によってまかなわれた。

1993年6月11日、12日と2日間にわたって開催され参加者はアメリカ側25の地区から登録会員107名家族ゲスト103名、日本側は16の地区から会員60名夫人18名であった。合計289名であったが内容は素晴らしいものであった。

現在世界が冷戦超軍事力競争を経済その他の競争にかえる共通の理解を求め協力を増し親善を深めるためロータリーはどうあるべきかを討論するため

- 1) 日米のロータリアンは、いかに国際理解と世界平和を促進する世界中のロータリー国際プログラムに参加し協調していくか。
- 2) ロータリアンは、いかに日米の文化的相違を理解し尊敬をますか。

- 3) ロータリー内外の日米協調の機会とはなにか。
- 4) ロータリアンは二つの優れた国の人々との関係を確保し深めるため、いかに現在の友好関係を強化していくか。

これを主題としてパネルディスカッション、ワークショップセッションで話し合った。

アメリカ側代表はウィリアム・T・サージェント財団管理員、日本側代表は伊藤義郎元理事であり、会議にはボーマン、アーチャー、ケラー元会長、パース会長エレクトを始めRI役員元役員多数、日本からは松本理事、中島治一郎財団管理員、板橋ゾーンコーディネーター等の参加であった。

特にアメリカ側にも強烈にアピールしたのは栗山尚一駐米特命全権大使の「日米文化の相違の理解と尊敬」と題する特別講演であった。内容はすばらしいものであり又大胆に経済摩擦や服部君射殺事件にもふれられた。これは多くのロータリアンにも聞いて貰いたく伊藤義郎議長に翻訳してくれるよう依頼してある。

先に記した主題をセッションテーマとして

- (1) 日米ロータリーの現状
- (2) 国際理解と平和促進のための手段としてのロータリー又財団プログラムについて
- (3) ロータリー内外の成功するプログラムと友好関係、またそれらはいかに促進されたか。
- (4) 制度化された協調のモデルと機会  
そして最後が4つのグループに分れてのワークショップセッションであった。  
夫々のセッションにモデレーター、バ

ネリストとして日米から選出され熱弁をふるった。私は(2)のセッションのモデレーターとして2510地区望月 PG, 2620地区加藤 PG, アメリカ JOHN.K.NELSON PG. をパネリストとして50分のパネルディスカッションを無事勤めた。

討論内容をくわしくのべるのにページ数が足りないので会議内容だけにとどめるが、オークリッジ市は人口27,000人大学院研究所の人口15,000人で広大なキャンパスでありそこで会議が開催され、2日間共参加者は真剣に討論に参加した。第1回のロータリー日米親善会議は大成功であったと思う。伊藤義郎元理事が共同議長としてごくろうされたのも成功の一因であった。成熟した

ロータリー大国である日本とアメリカのロータリアンが始めて同じテーマで語り合った意義は大きい。アメリカ側の関心も強く参加希望者は多かったが会場の都合で制限したと云う。私は最後に会議の成功を称えこれを第2回第3回へと続けていくためにロータリー財団の公式プログラムとして採り上げてくれるよう出席して居られたケラー財団管理委員長にお願いすることでスピーチをしめくくった。残念であったのは2500地区は私1人の参加しかなかったことで、この報告が今後もし第2回につながるとしたら地区内ロータリアンの関心を少しでも高めることが出来たとすれば幸である。